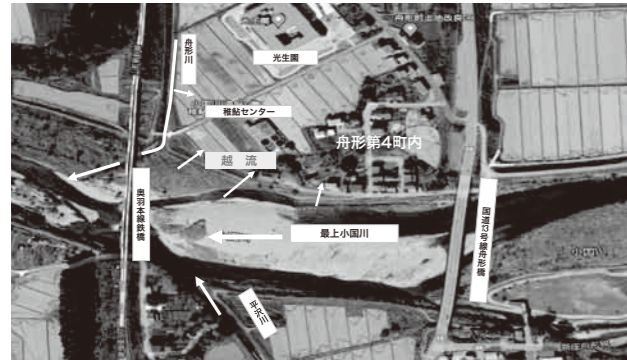


防災・減災対策について問う

長期的に築堤を含めた河川改修の検討



伊藤 欽一 議員

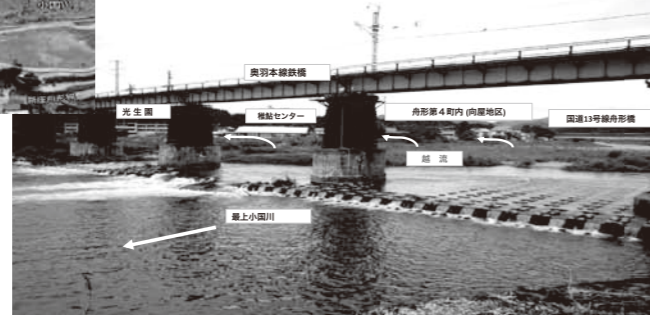


洪水による越流と内水被害が想定される舟形第4町内（向屋地区）

安全安心の生活環境保持のため低い堤防の早期改修が望まれる

質問 7月3日から4日未明にかけ、九州各地及び西日本で豪雨により人的な被害を含め甚大な災

害が発生し、7月28日から山形県内でも広範囲で豪雨に見舞われ、29市町村で少なくとも2千人以



上が避難しました。100年に一度などと言われる災害が、現在では当たり前のように発生している状況です。小国川と舟形川の合流上部に位置する舟形第四町内（向屋）地区の内水対策を、今後どのようにするのかが、その後の動向を伺います。

町長 この地区は小国川の洪水浸水想定区域になっており、避難勧告の適切な発令や住民の主体的な避難が期待される区域であります。

浸水想定に対し堤防が低い現状では、避難を最優先に考えるしかありませんが、短期的には小国川の堆積土砂の浚渫、長期的にはなりますが、河川改修を含めた築堤も今後検討していかなければならないと考えます。土砂災害防止対策につ



平成30年8月の豪雨で洪水による浸水被害にあった光生園と稚鮎センター

いては、被災直後の現地調査で、えん堤が満砂状態であることを確認し、町と長尾町内会が翌年3月に、国及び県にえん堤の機能回復と強化の要望を提出しています。災害発生以降、国及び県は毎年複数回定期的に確認しており、しばらく様子

見ることになりました。本年7月27日に長尾地区公民館において、地域住民に対し説明会を開催しています。今後は、国、県と情報を共有し連携しながら、土砂災害防止対策に努めていきます。



叶内 昌樹 議員

安心安全の道路整備について

費用対効果も踏まえ検討する

質問 県内における交通事故の発生状況は年々減少傾向ではあるものの、事故の半数は高齢者の事故であります。一方で、高齢者の運転免許証の自主返納者数が、5年間で約3倍となっており、それが交通事故の減少に結びついていると思われま

す。今後、高齢化によりシルバーカー・シニアカー・電動車椅子の普及も考慮して、信号機の設置されていない横断歩道、または町道と幹線道路が交わる箇所、更には自転車歩行者道の途切れている箇所からの路側帯において、交通事故防止に多大な効果を出しているカラー舗装化等を行なっているかどうか。



歩道の区切部分のカラー舗装例

町長 自主返納を進める代わりに、サポートを推奨するために町で補助金を出しており、国の方でも令和元年の12月から制度が拡充されたこともあります。令和元年の町道での交通事故は、車両相互1件、車両単独4件です。シルバーカー等の利用も承知していますが、事故の発生等もなく、その方々のために町道の部

分をカラー舗装するということとは、歩行者等の保護面ではあまり効果が期待できないと考え、現実的に難しいのではないかと考えます。やはり、操作する方々が交通安全に対する注意をすることが一番の交通安全だと思えます。交通安全母の会や安全協会舟形支部等の関係機関とも相談し、要望があれば、地域の実情と費用対効果も考えながら我々行政側でも検討していく必要があると考えます。

質問 舟形町のアユパー
復旧状況も踏まえ必要に応じて検討
河川公園の利活用 促進について

町長 本河川公園は町の観光スポットの一つでもあります。昨年度は、多目的広場のアスファルト舗装、チャイルドランド



9月の猛暑時に水遊びを楽しむ親子連れ

遊具の新設復旧を行い、今年度は多目的広場へのペイント事業を進めているところとあります。災害での復旧をしている状況で足を固めながら、どの程度の必要性があるのか勘案しながら、皆様に愛される魅力ある公園になるよう整備していきたいと考えています。